

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第1区分

【発行日】平成29年6月29日(2017.6.29)

【公開番号】特開2016-11604(P2016-11604A)

【公開日】平成28年1月21日(2016.1.21)

【年通号数】公開・登録公報2016-005

【出願番号】特願2014-132559(P2014-132559)

【国際特許分類】

F 04 C 18/02 (2006.01)

【F I】

F 04 C 18/02 311 J

【手続補正書】

【提出日】平成29年5月16日(2017.5.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

旋回スクロールと、前記旋回スクロールと対向することで冷媒ガスを圧縮する圧縮室を形成する固定スクロールと、前記旋回スクロールのスラスト方向の荷重を支持するスラスト板と、を有するスクロール圧縮機構と、

前記スクロール圧縮機構で圧縮された前記冷媒ガスを、前記スラスト板の背面に背圧として作用させる背圧付与機構と、

前記背圧に基づく前記スラスト板の浮上量を規制する浮上量規制機構と、

前記スクロール圧縮機構と、前記背圧付与機構と、前記浮上量規制機構と、を収容するハウジングと、を備え、

前記浮上量規制機構は、

前記スラスト板を貫通するとともに、先端部分が前記ハウジングに固定される軸部と、前記軸部に連なり、前記軸部よりも径の大きな頭部と、を備え、

前記スラスト板を前記頭部に係止させることで前記浮上量を規制する規制ピンを備えることを特徴とするスクロール圧縮機。

【請求項2】

前記頭部は、

前記スラスト板を貫通し、前記規制ピンが挿入される規制孔の段差に係止される、
請求項1に記載のスクロール圧縮機。

【請求項3】

前記旋回スクロールの自転を防止するピン・リング式の自転防止機構を備え、

前記自転防止機構の前記ピンが、前記規制ピンとして機能する、

請求項1に記載のスクロール圧縮機。

【請求項4】

旋回スクロールと、前記旋回スクロールと対向することで冷媒ガスを圧縮する圧縮室を形成する固定スクロールと、前記旋回スクロールのスラスト方向の荷重を支持するスラスト板と、を有するスクロール圧縮機構と、

前記スクロール圧縮機構で圧縮された前記冷媒ガスを、前記スラスト板の背面に背圧として作用させる背圧付与機構と、

前記背圧に基づく前記スラスト板の浮上量を規制する浮上量規制機構と、

前記スクロール圧縮機構と、前記背圧付与機構と、前記浮上量規制機構と、を収容するハウジングと、を備え、

前記浮上量規制機構は、

前記スラスト板の周縁が、前記ハウジングの内周壁に係止されることで、前記浮上量が規制されることを特徴とするスクロール圧縮機。

【請求項 5】

前記旋回スクロールが備えるラップと前記固定スクロールが備えるラップの一方又は双方の先端面に、アブレイダブルコーティングが設けられている、

請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載のスクロール圧縮機。